

# 博士課程教育リーディングプログラム PO フォローアップ報告書(平成29年度)

プログラムオフィサー氏名： 小粥 幹夫

機 関 名	大阪大学	整理番号	K03
プログラム名称	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム		
1. 進捗状況概要（留意事項、フォローアップにおける指摘事項への対応状況、及び実施した支援の概要、助言内容等含む）			
<ul style="list-style-type: none"><li>・初年次のヒューマンウェア（HW）基礎論とイノベーション創出論、さらには融合研究、研究室ローテーションを通して他分野の仲間との対話を通して主体性を向上、アウトリーチを含む学内外活動を積極的に展開、HP から発信、人材早期確保にも寄与している。</li><li>・学生同士の自主立案、教員提案による融合研究が本格化、博士論文に繋がるケースが増えている。主体性ととともに理念である斉同熟議の精神がこれを支えている。</li><li>・産業界支援でイノベーション実践演習、国内インターンシップ等の社会接点を通して実践資質を築き、トリプルアドバイザー制度の力もありキャリアパスの多様化が進んでいる。</li><li>・外国人教員採用、英語授業増、留学生主体イベントにおける English café の開催、海外短期研修を通じた語学力に加え、海外インターンシップ（短期：1 ヶ月以上、長期：3 ヶ月以上）が本格化、海外体験重視のグローバル視点育成が進んでいる。</li><li>・学外副査含むアドバイザー委員会の審査に合格した 1 期生 16 名が平成 29 年度にコースワークを修了し、半数が企業に就職、広い分野での活躍が期待される。</li><li>・GPI スキル評価によるデザイン、コミュニケーション、マネジメントの力が 1 期生では履修前後で倍増したことが自己、教員評価で確認できた。学外第三者機関による評価でも、非履修生との有意差が確認され、目標資質に有効なプログラム内容の分析も進んだ。</li><li>・これらの成果が産業界や他プログラムとも共有され、持続的発展に導く全学体制構築が進んでいる。</li></ul>			
2. 課題・意見等（今後、フォローアップが必要と思われる点等）			
<ul style="list-style-type: none"><li>・国内・海外いずれかで必須のインターンシップは、今後の 4 学期制移行により本格化して成果をあげることに期待したい。教員の推薦以外の行先選択を含めて、学生も加わった制度改善に期待したい。</li><li>・本プログラムの持続発展、広い展開には、コスト削減が不可欠である。効果のあるカリキュラムを明確にし、重点強化してフォローする必要がある。これらには、同一大学、同一分野での連携から始まると考えられ、継続した検討を期待する。</li><li>・本プログラムの研究職以外でも活躍するリーダー育成は、修了後の社会での活躍によって確認できるものであり、文部科学省、プログラム、大学等が連携してフォローする必要がある。</li></ul>			
3. その他（所感等）			
<ul style="list-style-type: none"><li>・経済的支援に期待した履修もあるが、プログラム履修開始直後の合宿での斉同熟議、HW 基礎論後の学生討論で異分野との繋がり的重要性に気付き、「主体的・対話的で深い学び」に繋がる様子が学生討論、HP の履修生紹介から伺われる。</li><li>・融合研究、博士論文による融合が可視化され、新分野の体系化が進み、1 年次の HW 基礎論にも反映蓄積され、継続的改善が進むことを期待する。</li><li>・主体的な学びの基本を高校までに身に付けることで、大学での多様な社会課題解決への取組パワーは増す。初等中等教育とも連携した大学の総合的な教育改革に期待したい。</li></ul>			